

できることからごみ減量！身近なところで一工夫。

# 紙をもっとリサイクル

新聞紙やダンボール、雑誌を資源物として分別している方は多いと思います。しかし、燃えるごみの中には紙箱、包装紙、メモ紙などリサイクルできる紙類がまだまだ多く含まれています。これらの紙類は「雑がみ」としてリサイクルしましょう。

## リサイクルができる「雑がみ」



紙箱



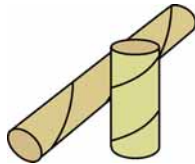
ティッシュボックスとふた



はがき・封筒



包装紙



ラップなどの芯



レシート・チケット



紙袋



割り箸の袋

厚紙、画用紙、習字紙、紙ファイル、コピー用紙、メモ用紙

不要になった時に分別しましょう！

分別は意外と簡単です。「雑がみ」が不要になった都度、紙袋へ入れてください。

## 雑がみの分別・出し方



ごみ箱とは別に、紙袋を用意し「雑がみ」を溜めてください。



いっぱいになったらこぼれないように、ひもで縛ってください。

紙類の日に雑誌と同じ場所に出してください。

「雑がみ」は雑誌と同じ区分です。雑誌に挟み込み、縛って出すこともできます。

## 「紙」に再生できないもの

汚れた紙類(食品が付着したものなど) 写真・アルバム 感光紙(青焼きコピー紙)  
感熱紙(ファックス用紙など) 感熱発泡紙(点字用紙など)  
カーボン紙(複写式の内紙、伝票類など)  
アルミコートされた紙(ジュースの紙パック、カップ麺のふたなど)  
防水加工紙(ビニールコートされた紙、油紙など)  
ワックス加工紙(紙コップ、アイスクリームのカップなど)  
捺染紙(アイロンプリント、縫製用の型紙)

# 生ごみの水切りをしましょう

生ごみの70%以上が水分です！

市で収集する燃えるごみのうち、野菜くずなど生ごみは年間約8,500トン、その水分量は25mプール(25m×10m×1m)で、約24杯分になります。この水分が少しでも減らすことができます！



ごみを減量するために、水切りをしましょう！

生ごみをネットで水切りし、捨てるときに、「ぎゅっ」と絞ると約大さじ2杯(30 cc)の水切りができます。「ぎゅっぎゅ〜」と絞って大さじ4杯分(60 cc)の水切りができれば約1100トンの減量が見込めます。

(50,000世帯が365日実践した場合)

水分を減らすことは、ごみの減量につながるだけでなく、焼却する効率も良くなります。

## ～ 水切りのポイント ～

乾いている生ごみは濡らさないようにしましょう。

野菜くずの「へた」、果物の「かわ」や「しん」はそのままごみ袋へ



お問い合わせ先 / 環境課ごみ減量係 88 - 2674